

会 議 録

会議の名称	子育て支援計画策定委員会（第3回）
開催日時	平成14年9月28日（土） 午後3時30分から午後4時30分まで
開催場所	田無小学校体育館
出席者	（委員）森田委員長、有澤副委員長、安藤委員、川又委員、片山委員、出川委員、本間委員（欠席 田口委員、武田委員、古荘委員） （事務局）半井部長、田島 （コソカ外ト）高屋、兵庫、岡野 （傍聴者）4名
議 題	（1）会議録の承認 （2）「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果をふまえた意見交換 （3）作業部会等の報告
会議資料	1 会議次第 2 資料 作業部会等の経過報告と今後の予定について
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
森田委員長	開会宣言
事務局	資料の確認 本日の資料は「会議次第」と「資料 作業部会等の経過報告と今後の予定について」の2つである。 議題1 会議録の承認について 第1回及び第2回策定委員会の会議録は、委員の皆さんに事前に送付して確認してもらったが、訂正等の指摘がなかったため、そのまま最終的な会議録としたい。 第2回策定委員会での武田委員からの質問について 第2回策定委員会において武田委員からあった質問に対する回答は次のとおりである。 昨年度の保育園における子育て相談、園庭開放件数について ・子育て相談の件数は年間368件で、必ずしも多くない。 ・市内にある17園のすべてで、園庭開放が実施されている。 - 園庭開放の延べ利用者数は年間2,680人である。 「こどもの発達センターひいらぎ」の相談内容について ・「ひいらぎ」と子育て支援課は健診を通して連携できている。 ・例えば、乳幼児健診（0歳児健診、1歳6ヵ月健診）で、発達障害や言葉の遅れなどについての相談を保健師が受け、専門の小児神経内科医や理学療法士などと相談できるようになっている。 ・学校との関係は「就学指導委員会」に「ひいらぎ」の職員が参加している。 ・また、保健師や相談員が参加する庁内の「子育て支援ネットワーク」で、重大なケースについて協議する体制が整っている。そこでは児童虐待への対策支援も行われている。
森田委員長	議題2 「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果をふまえた意見交換 今日の意見交換の結果をふまえて、皆さんの感想等を順番に伺いたい。

安藤委員	<p>皆さんの意見には対立するものがあった。例えば、公園には駐車場が必要だという意見といらぬという意見があったし、施策を急いで実のある計画をとるという意見と基本をしっかりと押さえた計画づくりを求める意見があった。いろいろな意見がある中で、それらをどう考えていくのか、自分なりに詰めたいと考えている。</p> <p>文部科学省では今、保育延長などの子育て方針を発表しているが、西東京市の実態を反映した計画策定のために、子育ての実態を把握したいと思っている。</p>
川又委員	<p>今日は建設的な意見が多かったと思う。</p> <p>キーワードでみると、「中学生の居場所」「庁内の連携」「PR不足」「施設の使いにくさ」など、今まで考えていたことがでてきていたように思う。</p> <p>「循環」をどう考えるか、子どもから親になっていく部分について、もっと意見がほしかった。</p> <p>子どもの自己スキル（自己肯定感）については今日的な問題と考えている。</p>
出川委員	<p>自分から積極的に情報を得るタイプでない在宅の親に対し、どのように情報を提供していけばいいのかを考える必要がある。</p> <p>中学生・高校生との知り合い方が大切だと思う。居場所がなくてたむろしていても、知っている子どもなら声かけられるということだった。中学生・高校生対策を特化して行うか、全体の中でとらえるか、どちらの方向で臨むのがいいのか検討が必要だと思う。</p>
本間委員	<p>自分から積極的に情報や友人を得ようとしぬ（表にでていけず閉じこもっている）親に対する支援が必要である。そのような親は乳児健診のときにおおむねわかる。</p> <p>たむろしている中学生・高校生に声をかけづらぬのは、地域性が失われ、普段の交流がなくなっているためだと思う。</p>
森田委員長	<p>小学校の保護者とのヒアリングでも、小学生は中学生を怖がっているという意見が多かった。</p>
有澤副委員長	<p>小学生が中学生を怖がって逃げてしまうのは、小学生の親に中学生が怖いという意識があつて、そのことで子どもに暗示を与えてしまっているケースも多いようだ。</p> <p>小学校の先生も、校庭に中学生が入ってくるような場合、警戒してしまうことが多い。健全な中学生だけではないという現実もある。</p> <p>小学生と中学生の交流は学校レベルで行うべきだが、実際にそのような交流はあまり行われていない。</p> <p>学校の先生は学習面の指導で精一杯で、小学生と中学生の交流はPTAや地域が中心になって進めてもらえればありがたい。地域の「育成会」では、小・中学生が一緒に、落ち葉を集めて「焼きいも大会」をやっているところもある。</p> <p>中学生も本来、小さい子どもをかわいがる。</p>
森田委員長	<p>子ども部会で小学生と中学生を一緒にしようとしたら、中学生から嫌だと拒否された。</p>
片山委員	<p>最近、教育実習で中学生・高校生と出会う機会が多い。最初、怖いという先入観があり、自分から壁をつくっていた。しかし、知り合うととてもよい子どもたちである。</p> <p>交流できるきっかけがあればいいと思う。</p>
森田委員長	<p>西東京市民まつりでは大学生につなぎをしてもらう形で、子どもたちによる子ども調査を行う予定である。</p>

片山委員	<p>キャンパス(武蔵野女子大)では今、受験生(高校生)の来訪があり、そこで高校生と大学生との交流がある。</p> <p>受験相談にも参加しているが、親が熱心な場合や友だちだけで誘い合って来る高校生など、いろいろである。そこでは高校生も気軽に話してくれるため、特に違和感はない。</p>
安藤委員	<p>現実には深刻である。教師のときの経験だが、中学生が何かやったとき、注意しないように、教師が直接関わらないようにと警察から指導された。問題が起こると親もどうしていいのかわからなくなるというのが実態である。</p>
森田委員長	<p>一昨日の庁内ヒアリングで、教育委員会では市内の非行問題はまだ深刻でないにとらえているということだった。</p>
安藤委員	<p>現実として、普段はおとなしいのに、突然キレてしまう中学生・高校生が多いという問題がある。中学生・高校生の非行は大きな問題である。</p>
有澤副委員長	<p>中学生・高校生問題には何か対策が必要である。市の中に彼ら専用の居場所がない。</p>
森田委員長	<p>庁内ヒアリング(公園緑地課)によれば、合併記念公園に中学生・高校生向けの施設ができるようである。それをどう運営していくかが今後の課題で、そこはこちらの領域である。皆のための公園は、特徴がなく、逆に使いにくい。必要なら、ここに合併記念公園の図面を持ってくることも可能である。</p> <p>今の傾向として、各地区に誰でも利用できる公園を整備している。それによって出会いの場は確実に増えるが、その出会いが対立構造の中で起きてしまうと子どもたちには不幸である。</p> <p>公園づくりも、個別化と協働を考える必要がある。公園にサポート要員を配置することで、中学生・高校生の居場所を確保するという方法もある。</p> <p>中学生・高校生が、ひとつのところを追い出され、次、また次へと移っていく。追い出しや厄介者扱いされた中学生・高校生が、まちを好きになれるわけがない。</p>
安藤委員	<p>自分の若い頃はまちの中に居場所がないと感じたことはなかった。今、中学生・高校生なら、そのような場所がほしいと思うだろう。</p>
本間委員	<p>昔は中学生・高校生が仲間で騒いでいても、大人は大目に見ていたものである。今は大人の意識が変わってきている。メディアの報道がそのような心理をつくっている。</p>
有澤副委員長	<p>今は大人社会にゆとりがなく、いらだっている。中学生・高校生の居場所はスペースだけの問題ではない。人の問題であり、子育て中の親にも責任がある。</p> <p>P T Aで役職に就くと人間関係が広がるように、中学生・高校生も地域の中で自らの責任を果たすことで達成感が得られるようなこと(事業づくり)を行政で実施・支援できないか。</p> <p>今は中学生・高校生が子ども扱いされている。</p>
安藤委員	<p>昔のように、地域のリーダーづくりが必要ではないか。例えば、ボーイスカウトとか。今は地域で世話を焼く人がいない。</p>

森田委員長	<p>庁内ヒアリングによれば、公民館活動で中学生・高校生が自ら参加し企画するものを取り上げようとするなど、行政が中学生・高校生の活動を支援する動きがでてきている。子どもたちを上から押さえつけるのではなく、横から支える体制が必要である。</p> <p>子どもとの付き合い方を大人がわかっていないというのが現状である。</p> <p>昨年、子ども福祉審議会では施設見学を行った。策定委員会としても、委員の希望があれば子育て関連施設の見学をすることができる。審議会のときに見学された委員もいるため、策定委員会としてではなく、申し出があれば個別に対応したい。</p>
森田委員長	<p>議題3 作業部会等の報告</p> <p>コンサルタントから、作業部会等の報告をしてほしい。</p>
コンサルタント	<p>配布資料 「作業部会等の経過報告と今後の予定について」の説明</p> <p>市民交流会について</p> <p>子ども部会について</p> <p>子育て支援団体等へのヒアリングについて</p> <p>庁内ヒアリングについて</p>
森田委員長	<p>作業部会等の報告にもあったように、現在、作業部会としていろいろな作業を進めている。その中には各委員にも関心のあるものがあると思うが、「こどもの発達センターひいらぎ」の保護者ヒアリングなど、相手に配慮が必要なものがあるため、私と出川委員が中心となって行わせてもらう。</p> <p>子育て支援グループのヒアリングは各委員の参加も可能なため、時間等の都合がつけば参加してほしい。10月8日までにヒアリングの予定が決まるため、10月18日、20日、25日のいずれかになると思うが、予定がはっきりしたら事務局から案内させてもらう。</p> <p>次回の策定委員会では、庁内ヒアリング等の結果について、大まかなデータを提出できると思うため、よろしくお願ひしたい。</p>
森田委員長	<p>閉会宣言</p>